

SIT+KU+AIT+SUT gPBL: 自然災害に対する地圏の防災・減災技術に関するワークショップ

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2022年09月10日 ～2022年09月17日	タイ	カセサート大学	<ul style="list-style-type: none"> ・土木工学科、社会基盤学専攻 ・学部1年生、学部2年生、学部3年生、学部4年生、修士1年生、修士2年生 	(芝浦工業大学) 学生33名、学生バイト4名、 教員1名 (カセサート大学) 学生36名、教員6名、職員3名	稲積 真哉(土木工学科)



図1 集合写真

カセサート大学バンコクキャンパスおよびパタヤ(チョンブリー)において、“熱帯雨林の気候条件に曝される国々におけるスマートな土木工学”をテーマとしたグローバルPBLを実施した。

当該グローバルPBLでは、本学(SIT)から土木工学科を中心に37名、ならびにカセサート大学から36名の計73名の土木系学生が参加した。

当該グローバルPBL期間中は、各日午前における特別講演や実演などの全体イベントに加え、各日午後は9グループに分かれた各グループで活動を行った。また、期間中にはパタヤ(チョンブリー)まで遠征(2泊3日)し、灌漑ダムの整備状況や海岸浸食に対する海浜保護工を視察するとともに、浸食から海浜を護る技術である補強土工法をコンテスト形式で実際に実験して体験した。

グループ活動では、テーマである“熱帯雨林の気候条件に曝される国々におけるスマートな土木工学”を各グループ内で共有・議論した。その成果を披露するために開催された最終発表会では、SITとKU学生のコラボレーションの跡を見られる発表内容が多く、全ての参加者はグローバルを通じてあらゆる気象条件下で土木工学が果たすべき役割を創造することができた。

全体イベントでは、タイでも日本でも有名な地盤工学者であるDr. Suttisak Soralump (Kasetsart University) からタイの洪水からの避難対策に関する特別講演をいただいた。また、タイ三信建設工業株式会社のご厚意により、熱帯雨林環境下における地盤改良工法の講演も催された。□



図2 KU工学部長と握手



図3 グループ活動の様子(その1)



図4 グループ活動の様子(その2)



図5 パタヤにて(その1)



図6 パタヤにて(その2)



図7 最終発表会の様子